

不妊症の原因の内訳は、女性因子のみ41%、男性因子のみ24%、男女とも因子あり24%といわれており、不妊症のカップルの48%に男性側因子が存在します。

男性不妊症は、精巣で十分な精子を作り出せない状態である「造精機能障害」、精子が、精巣から尿道まで到達出来ない状態である「精路通過障害」、勃起不全があり性行為を正常に行えない状態である「性機能障害」の3つが主な原因となります。この内、造精機能障害が、男性不妊の原因の約83%と大部分を占めます。その結果、精液中の精子の濃度が低下する「乏精子症」や精液中に精子が存在しない「無精子症」、精子の運動率が低下する「精子無力症」などの症状が見られます。

造精機能障害はその半分以上が原因不明ですが、35.9%と最も頻度が高いのが精索静脈瘤です。精索静脈瘤とは、精巣から心臓に戻る静脈の血流が何らかの原因により逆流し、精巣の周りに静脈瘤ができてしまう病態です。静脈瘤による血流障害のため精巣の温度上昇が起きる、精巣が低酸素環境になる、などの影響で精子が造られにくくなっています。精索静脈瘤は、精巣静脈を縛ることで造精機能が改善する場合があります。男性不妊症専門の医療機関で適切な診断と治療を受けることをお勧めします。